

1（１）学校と連携した地域文化の担い手の育成事業

①昔の農作業体験「田植え」

令和元年 5 月 9 日

於：砺波市庄川町示野の田んぼ

○事前調査（学校による聞き取り）

家族の誰かが農業（米作り）をしている 10 人/48 人中 うち手伝ったことがある 6 人

田畑が家のそばにあり、農業（米作り）の風景を見慣れていても、田畑の作業に対して関心が薄いのはどの校区の子供でも同じだと思われる。そこで、田植え、草取り作業（らち）稲刈りを、昔の道具を使ってする活動を通して、昔人の暮らしや米作りの農具に関心をもつ子供たちが育つことを期待している。（地区公民館や学校は地域を大切にする児童を願って事業を進める企画）

○田植え作業

手作業時代の農作業を体験することで、今の暮らしを考える。また昔の暮らしとの繋がりを考える。

《写真》



砺波市庄川町青島公民館、庄川小学校の協力を得て、小学 5 年生を対象に、昔の農作業体験（田植え）を行った。郷土資料館より教材用農具（ころがし）を貸し出して使用し、昔の作業風景を説明した。小学生：48 名、保護者：15 名、公民館ボランティア（公民館）15 名、本実行委員会より：2 名参加。

○内容・経過

育った苗を前に、発芽から今日までどのような世話をして成長したか、米の品種や田植えをする上での注意を聞き、グループに分かれて指導者の指示に従って田に入った。

苗を植える前に、ころがしの使い方を聞き、数人の生徒がころがしの体験を行った。ころがしの跡のどこに、どの深さで苗を植えるかを指導者の手本を見て田植えを開始した。浅く植えると浮き上がり、深く植えると成長が遅くなることを聞き、どの子供も丁寧に慎重に植えた。

植え付けた品種はコシヒカリと餅米である。

○評価と課題（感想）

丁寧な説明だったため、子供らは種から苗に成長するまで、しっかり温度管理や水管理がされていることに気づいた。また「根を大切に植えること」が大切だと聞いて、苗を大切に扱って植えていた。また、ころがしの重要性を伝えたことは今後のらち打ちや稲刈り作業につながる大切な内容である。